

皆さまのご来館をお待ちしております。

【入館料】 無料

【休館日】 水曜日、年末年始

(二〇一九年十二月二十九日)

(日)～二〇二〇年二月五日(日)

【開館時間】 午前十時～午後五時(入館は午後四時三十分まで)

※最新の情報は金融資料館ホームページをご覧ください。

ムページをご覧ください。

【所在地】 北海道小樽市色内

一―一―一六

【お問い合わせ先】 金融資料館

〇三四―二二―二二



京都支店が「にちぎん京都の休日セミナー」を開催

▼京都支店は、九月二十一日、二十二日に、旧店舗である京都文化博物館において、辰野金吾没後一〇〇年イベント「にちぎん京都の休日セミナー」を開催しました。京都支店の旧店舗は、日本銀行本店や東京駅と同様に辰野金吾が建築を手がけました。明治三十九年(一九〇六)から約六〇年にわたり利用され、現在は京都文化博物館として親しまれています。イベント



辰野金吾が手掛けた京都支店旧店舗
(現・京都文化博物館〈国指定重要文化財〉)

当日は、二日間で延べ約四〇〇名の皆さまに、ご来場いただきました。

▼セミナーでは、肥後雅博京都支店長が「日本銀行京都支店旧店舗時代の京都経済」と題して、旧店舗で営業を行っていた時代(一九〇六～六六年)を中心とする明治維新以降の京都経済の歴史について講演を行いました。講演では、近代都市化を進める中での第二琵琶湖疏水をはじめとした社会資本整備から、世界大戦や世界恐慌、高度経済成長期の京都経済について、当



肥後支店長による特別講演の様子



お札の偽造防止技術の紹介コーナー

時の写真や経済の動きが分かるグラフを盛り込んだスライドを交えつつ振り返りました。一時間で約一〇〇年間の京都経済の歴史を振り返るといふ内容で、受講された方々は興味深く聴講されていました。

▼支店長講演のほかにも、支店の歴史や日本銀行の業務の紹介、お札の偽造防止技術や豆知識に関する講座のほか、辰野金吾が設計した日本銀行本店の建物を紹介するミニ講座も開催しました。受講者には、日本銀行京都支店を身近に感じていた

編集後記

■ 5月より令和の時代が始まりました。早いもので、もう年末を迎えようとしています。平成31年も含め、皆さまにとって今年はどうな一年だったでしょうか。昨年に続き、いくつもの大きな自然災害に見舞われました。被害を受けられた方々には、謹んでお見舞い申し上げます。一方、喜ばしい出来事もありました。ラグビーワールドカップでは、日本代表チームが初のベスト8に進出したことに加え、日本の関係者やファンに対して海外から称賛の声が多く寄せられました。天皇陛下の即位礼正殿の儀や後日のパレードでは、伝統と新しい時代との調和を感じました。長い歴史の中で、日本は幾多の困難に直面してきましたが、その都度、伝統をしっかりと守りつつ、新しい時代に柔軟に対応し、今日の発展を成し遂げました。今号で取り上げた出雲大社、勝沼のワイン、美濃和紙などは、こうした伝統の維持(ディフェンス)と変化への取り組み(オフェンス)を感じ取れる話題だと思えます。ぜひお楽しみください。(中川)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。
(https://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ(<https://www.boj.or.jp/>)をご覧ください。

にちぎん 2019年冬号
編集・発行人 中川 忍
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎ 03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所
印刷 株式会社アイネット
禁無断転載

▼会場内には、常設の展示・体験コーナーを設け、一億円(模擬券パック)や小判(レプリカ)の重さ体験、金塊や古いお札のレプリカ展示、世界最大のお金などのパネル展示を行いました。会場入り口には、京都支店の広報マスケットである「円香ちゃん」と猫の「一之助」やお札の顔出しパネルを設置しました。来場者からは、「日本の偽造防止技術がとても高度であることが分かって良かった」といった感想が聞かれました。

た。来場者には、職員がデザイン・作成したオリジナルの銀行券の裁断片入り菓を記念品としてプレゼントしました。

来場者には銀行券の裁断片入り菓をプレゼント



▼京都支店では、こうした地域とのつながりを大切にし、今後も地域経済の発展に貢献していきます。

会場入り口では京都支店広報マスケットの円香ちゃんと一之助がお出迎え

